

顕彰状

千信一氏は、1943年9月11日に大韓民国釜山広域市で生まれた。1965年2月、高麗大学校政経大学政治外交学科を卒業し、陸軍少尉任官等を経て、1974年に30歳の若さで外国からの技術導入および海外借款無しで、韓国初の石炭化学産業である株式会社製鉄化学を設立し、それ以降も多くの会社の創業と経営に携わり、1982年には現在の世中グループの基盤となる株式会社世中旅行を設立した。千氏は、これまでの会社経営で多くの人々に支えられたことに感謝し、会社があげた利益はできるだけ社会に還元することを、企業人としてのモットーとしてきた。

例えば、千氏はかねてより、本来韓国内にあるべき朝鮮王朝時代の石像文化財の多くが、日本をはじめ海外に流出していることに強い疑問を抱いていた。そこで、日本にあった石像70点を自費で買い戻し、その中から4点と自身所蔵の20点の計24点を国立民俗博物館に寄贈するとともに、社団法人韓国民俗博物館に民俗文化発展金として4億ウォンを寄付した。これらの功績により、2002年には国民勲章を受賞している。早稲田大学にも創立125周年記念のために、石像8点を寄贈し、大隈庭園などキャンパス内4箇所に設置されている。

千氏は、スポーツ振興の面でも長年尽力してきた。中でもレスリングは、1982年から韓国レスリング協会理事、副会長、1996年から2010年までは会長を務めた。その間、オリンピック大会7連続金メダル獲得および世界選手権やアジア競技大会でも多くのメダルを獲得したほか、世界初のレスリング昇段制導入や女子レスリングチーム創立、レスリング人の就業拡大等に貢献し、2004年に体育勲章猛虎章を受章した。また、3億5千万ウォンをレスリング協会に寄付して奨学金制度を設立し、レスリングを夢見る子供たちの育成を実践している。

さらに千氏は、広く韓国における教育や伝統文化発展、スポーツ活性化等のため、自身が保有する株式の3分の1に相当する110万5千株（約110億ウォン相当）を、母校の高麗大学校や延世大学校、浦項工科大学校、国立中央博物館、世中文化財団に寄付した功績により、2006年に韓国言論人連合会が主催する「誇らしい韓国人大賞」を潘基文国連事務総長らとともに授与されている。

高麗大学校と早稲田大学は教育と研究の長い交流の歴史を持つが、その中でも特筆すべきは、両校の校友会同士が密接な関係を築いてきたことである。両校校友会の友好関係は近年ますます深まりつつあるが、この間の千氏の貢献にはまことに大きいものがある。千氏は2007年からは高麗大学校校友会会長に就任し、従来の校友会を組織化、活性化させ、企業経営システムを導入し、効率的で充実した新しい運営基盤を確立した。その成果をもとに、本学校友会との相互交流協定の下に、双方の校友会行事等の協力をいっそう強化する中で、歴史ある両校の関係が従来の枠を超え、職員や校友会幹事の交流などあらゆる側面に及ぶに至っている。特にスポーツにおいては、これまでのサッカーやラグビーに加え、アイスホッケーも定期戦としてスタートした。このように両校の交流が継続して発展してきたのは、まさに千氏のリーダーシップの賜物と言えよう。

高麗大学校と早稲田大学に関係するすべての人々が積み上げてきた信頼と友情が、ひいては韓国と日本の相互協力や文化発展を支える確固たる土台となるものと確信するが、千氏はその中で中心的な役割を果たしており、両大学の友好関係に多大な貢献を果たしている。

ここに早稲田大学総長、理事、監事、評議員ならびに全学の教職員は一致して

千 信 一 氏に

名誉博士 (Honorary Doctor of Laws) の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が榮譽を与えんとする者を讃えよ！

(*Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!*)

2016年3月24日

早 稲 田 大 学